

全姉神会報

姉属性専門誌

vol/07

ZEN-ANE-REN
PRESENTS
ELDER SISTER
ONLY MAGAZINE

UESUGI MIHATO
from
KIMIGA-ARUJIDE
SHITSUIGA-OREDE



初めましての方も、おなじみのかたもこんにちは。
この度は全姉連会報をお手にとっていただき、ありがとうございます。
「全姉連会報第7号」です。

*

全姉連のご紹介。

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。
姉属性の普及、弟同志の情報交換を主に行っています。
全姉連総本部は普段 Web サイト上で主に活動していますが、
C65 よりコミケへ進出しました。

本書は、私・全姉連総裁が実際に触れて体験した
姉ゲー・姉コミックなどについてレポートするものです。
良い姉作品には惜しめない賛辞を、
分かっていない姉作品には容赦なく指摘を加えます。

*

今年は姉作品が質・量ともに良し！
おねーちゃん業界的には明るい話題が次々と。

姉ゲーで一代を築いた人の手によるブラコンお姉ちゃんがお目見えしたり、
お姉ちゃんを分裂させた人の続編が4年ぶりに発売されることになったり、
単行本化が待ち望まれた姉コミックが次々と現実のものになったり、
回を重ねるごとに姉指数が上昇する、驚きと感動の姉アニメが放送されたり…。

世界は姉を欲している！
そう思わざるを得ない姉作品ラッシュがしばらく続きそうです。

*

それでは、本書が迷える弟のよりよい姉ライフの一助となることを祈って。

【全姉連会報 第7号】

表紙：風華刊いづ先生による、鳩ねこと上杉美鳩お姉ちゃん

姉ゲー『君が主で執事が俺で』（みなとそふと）

「姉しよ」で一世を風靡したタカヒロ氏の独立デビュー作に
スーパーブラコンお姉ちゃん登場！
氏の作品には、やっぱりこれくらい強力なお姉ちゃんがないと！

姉ゲー『姉★スク〜わがまま！姉とスク水誘惑特訓』（Dure★Milk）

水着のお姉ちゃんが好きな奴は一步前に出る！
弟を誘惑する悪いお姉ちゃんが好きな奴もだ！

姉ゲー『マコトね〜ちゃんのボク教育法?!』（オーサリングヘヴン）

気弱な男の子に強気のお姉さん。オーサリングヘヴンのお家芸？
果たして主人公はきっちり教育されたのか？

姉アニメ『OVA ToHeart2 vol.1』（アクアプラス）

“タマ姉×雄二” 愛の劇場！
全弟が泣いた。総裁も泣いた。タマ姉ファンは心して見よ！

姉コミック『アットホーム・ロマンス』（風華刊いづ）

あの過剰姉弟愛4コマ、満を持しての単行本化！
姉プレイしよっつっつっつ！！

姉ゲー『あねいも 2nd.Stage』（bootup）

あの「あねいも」の続編が発売。
今度は2組の姉妹だ！どっちも強力なお姉ちゃんだ！

我林様特別寄稿『姉ノベル概説講義録』

ライトノベル界の気になるお姉ちゃん達をピックアップ。
ラノベにもいよいよ姉萌えブームのきざし？

千里きいん様ゲストページ

オリジナルのおねーちゃん&おとーとのステキイラスト！
コメントにも要注目！



君が主で執事が俺で

メーカー	みなとそふと
ジャンル	おつかえ ADV
発売日	2007年5月25日

主人公（上杉錬）とその姉・美鳩は義父の家庭内暴力により劣悪な家庭環境で育っていた。

姉と錬は自立するため都会（七浜市）へ家出する。

資金の無い都会での生活に苦しむ姉弟。そんな中、ひょんな事から久遠寺家のお嬢様に拾われる事になった。かくして主人公とその姉美鳩は、家付きの労働場所を手に入れたのである。

姉はメイドに。主人公は執事となり、労働を開始する。

安らぎの地を得たと思いきや、その家の3人姉妹も、先輩のメイド達も個性的な連中ばかり。騒がしい日々がはじまった。

■「姉しよ」タカヒロ氏謹製の…

姉ゲー道を志す者なら、誰もが一度は通るべき『姉、ちゃんとしようっ！』シリーズの製作者・タカヒロ氏が立ち上げたみなとそふとのデビュー作です。姉、強気っ娘と来て、今度は「おつかえ ADV」。次々に新分野を開拓する気鋭のライターと評されつつも、「ヒロインこそ主であり頂点。主人公(男)は従である」との哲学は何ら変わらないことを見抜いている諸弟には、本作のテーマも極めて順当なもの、と思えたはず。

しかし、「ああ、主と執事かあ。きつ～い主に強く出られたり、甘い主に可愛がられたり、とかく受け身がちな僕らに夢を見せてくれるんだろうな」などと安易な想像で終わらせる程甘くはなかった。

「私は上杉美鳩。ブラコンです。よろしく
お願いします」

たったこの一言で、『姉しよ』から飼い慣らされている小弟は、0.5秒であらゆる事情を理解し、続く0.5秒でさまざまな期待・予想・妄想が膨らみ、それから数テンポ遅れて顔のゆるみが襲って来たのです。

姉！

姉！

正統派ブラコンお姉ちゃんが登場する！

『姉しよ』の血を受け継ぐ作品に、とんでもないお姉ちゃんが登場する！

『きみある』は最初からクライマックスだったのだ！

■『きみある』は姉ゲーであ！

冷静さを取り戻し、姉ゲー観点からの正ヒロイン・美鳩お姉ちゃん—愛称・鳩ねえ—を検証してみると、鳩ねえは屋敷の主(あるじ)役ではなく、主人公であり弟である錬とともに実家を飛び出し、縁あって久遠寺家の主にお仕えするメイドさん、とのこと。従って、「姉に仕える弟」のゲームではありません。実際にプレイしてみても、「おつかえ」のテーマは主人公と鳩ねえの間には無関係。弟と生まれたからにはお姉ちゃんにお仕えしたいし、それが弟として当然じゃないか！との気持ちもよく分かりますが、本作については一旦置いておきましょう。主にお仕えする気分は別のヒロイン相手に十分味わえますから。

では、『きみある』における姉弟観・姉弟関係は概ねどのようなものかと言えば、「逆境にもめげず、新天地で互いに手を取

り協力し合う姉と弟」

「シスコン・ブラコンを認め合う姉弟の愛の行方」

とでもまとめられましょうか。堅い言葉で表せば、ですが。実際は極めて軽快でテンポの良い、きゃんでいそふと時代からの楽しい雰囲気を保ったものですので、誤解無く。

ゲーム本編は、まず共通ルートとしてのプロローグ¹から始まります。このプロローグは「家出した上杉姉弟が、久遠寺家のメイドと執事として雇われるまでの話」を描いたもの。当然そこでは、主人公と鳩ねえが主役。二人は既に重度のシスコン・ブラコンカップルなので、他の姉ゲーならば既にエピローグのようなラブラブ姉弟状態。ただし、いちゃいちゃバカップル状態ではなく、鳩ねえは弟の鍊を守ろうと、鍊は鳩ねえの力になろうと、姉弟二人ぼっちだけれど強く生きようとする様子が、明るくコミカルに表されています。ゲームの全体量が見えない初回プレイでは、ここまででも十分にお腹いっぱいになること必至。仮にプロローグだけで鳩ねえの出番は終わりとと言われても、神様タカヒロ様ありがとう、と言わずにいられないレベル。

もちろん実際は、プロローグ後の選択で久遠寺家のどの主の専属に就こうとも、鳩ねえは絶え間なく登場しますし、姉弟愛が薄まるようなことはありません。

ん？決して薄まることのない姉弟愛、いやそれ以前にお互いシスコン・ブラコンだと公言しているのに、他のヒロインとくっついてエンディングって、それは通らないんじゃない？との疑問が出てくるかも知れません。小弟もプレイ当初はそう思っていました。

¹ プロローグとは言え、体感的には各ルート全体の約3分の1程度はするのではないかと思える、長いものです。

しかし、

- ・弟の幸せを見守るのも姉の愛
- ・恋愛と姉弟愛はそもそも次元が違い、併存しうる
- ・姉弟の関係は終生不変

以上のどれもが答えと言えるでしょうか。確かに、正解としてはどれも100%納得とは認められないのが複雑な弟心。でも、そんな悩みが時々見え隠れする点で、タカヒロ氏の姉キャラに対する思い入れが伝わってくるので、十分に合格点。むしろ、鳩ねえルート以外において攻略対象のヒロインと結ばれた時、鳩ねえに対してどうオトシマエを付けるのか？鳩ねえは結ばれた二人に対してどう折り合いを付けていくのか？姉属性の我々は、そういう視点を持って姉ゲーの『きみある』を楽しむべきなのです。大体、どのヒロインを狙っても、姉の反応や態度をいちいち描いてくれるゲームなんて、そうそう無いのですから！

■上杉美鳩(うえあぎ・みはと)

主人公上杉鍊の姉。一言で言うとブラコン。

「世界最高の姉」とは鍊の言葉。

久遠寺未有の専属メイドに任命される。

笑顔が似合う、優しい雰囲気のする美人。

ネアカな性格で、常に弟の幸福だけは考えてくれている。

家事はそつなくこなせる。料理も得意。主人公に美味しいものを食べてもらいたいという姉心がここまでの腕に成長させた。

大切なもの・弟(上杉鍊)

趣味・弟と遊ぶ 歌を歌う(でもヘタ)

好きな動物・上杉鍊

特技・いつだってポジティブ 料理

必殺技・デコピン(一撃で流血)

それなりに姉ゲー経験を積んできたと自負する小弟ですが、「〇〇タイプの姉」と簡

単に言い表すことができないのが鳩ねえ。いつも明るく笑顔で、優しく、前向きで、常に弟思いで、芯が強くて、時にはヤキモチ焼きで、ブラコンが過ぎるあまり黒い面も持ってしまった小姑予備軍…それらが複雑に絡み合っただけの一人の鳩ねえを形作っているとしか言えません。例えば、ヒロインの一人・南斗星さんならば巴姉チック、のように紹介することもできるのですが、鳩ねえはこの姉に近い、と呼べる対象がさして見あたりません。もう言うなれば「美鳩タイプ」としてしまってもいいかも知れません。

もっとも大きな要素である“ブラコン”に関しては、過去の『姉しよ』作品と比べても全く劣らないレベル、その上さらに新しい境地まで見せてくれています。距離が離れていても、弟のピンチ（特に性的な意味で）を感知することができる姉、弟に付く悪い虫の匂いを鋭く嗅ぎ分ける姉は今までも存在しましたが、弟の肌を一舐めするだけで、弟の身边に起こった出来事を察することができた姉は鳩ねえが初。哀れ、愛する弟がよその女性に寝取られてしまったことを知るに至ってしまっても、鳩ねえは冷静に「レンちゃん、今、幸せですか？」と弟の気持ちを問いただす。そして、半分は弟の幸せを祝福し、半分は割り切れない想いから恨み言をつぶやき、よよよ…と去りゆく鳩ねえの背中。姉の強さに、弟が泣いた。ブラコンも時には罪な感情だとさえ思わせてくれるストーリーが『きみある』には込められています。「こうして小姑は出来上がっていくんだな」ということも。

■上杉錬(うへあぎ・れん)

主人公・錬のシスコンぶりも、『きみある』を姉ゲーにしている重要な要素。プレイヤーの分身である主人公が重度のシスコンなのは、姉ゲーファンにとって重要な条件。

時々ありますよね、姉がいるのに全然懐いていない弟とか、姉に対して愛も尊敬の念もない不遜な弟が。モニターのこっち側はお姉ちゃんに向かって凄い勢いで気持ち傾いているのに、モニターの向こうの彼は姉にそっけないというあの温度差。興ざめするっただけありません。

その点、彼は、姉マニアを自負する総裁も一歩退いて道をあけたくなる程のシスコンマスター。発売前、体験版の公開時に話題となったセリフ、「お、俺はシスコンだ。貞操は…とっておきたい」。カッコイイ！一生付いていきたい兄貴…いや、弟です。

「世界最高の姉」と鳩ねえを敬愛し、姉に守られると同時に姉を守りもする。鳩ねえの弟であることに誇りを持っている。弟としての立場をわきまえながら、姉に甘えるときは思いっきり甘え、でもヘタレやニブチンでもない。錬ならば、どこへ出しても恥ずかしくない、立派なシスコンの弟像といえます。

今までの姉ゲーは、お姉ちゃんヒロインのブラコンぶりを見て楽しむことが主でしたが、主人公のシスコン的行動・言動も姉ゲープレイヤーを楽しませるエンターテイメント要素になりうるのです。その事を示してくれた上杉錬と『きみある』は一種の発明と言えるのではないのでしょうか？

■ブラコン×シスコン=最強

ブラコンの姉×シスコンの弟。この単純な組み合わせが、最後に姉ゲーの行き着く所なんです。ブラコンとシスコンがもたらす喜劇と悲劇が『きみある』にはたっぷり詰まっています。タカヒロ氏の姉ヒロインに対するこだわりとセンスを改めて目の当たりにできる本作は、姉属性なら万人に勧められる1本です。一人でも多く、鳩ねえの優しさと黒さに触れてもらいたい！



姉★スク ～わがまま！姉とスク水誘惑特訓

メーカー	Pure☆Milk
ジャンル	学園ラブコメ ADV
発売日	2007年1月26日

……これは、ぼくとおねえちゃんの物語だ。

二つ歳の離れた、同じ学園に通う姉。

ぼくより背が高く、ぼくより成績が良く、ぼくより明るくて、そしてぼくよりちょっと口の悪い人。家族であり、友達であり、それから年齢差を笠に着てくる暴君であり、稀に保護者。近くも遠くもある異性。

でも、ぼくにとっておねえちゃんはずっと、ただそれだけの存在だった。

あの一週間――。

人のいないプールと、塩素の匂いと、放課後のぬるい空気と、ポリエステル製の水着と、そして。

女としての、おねえちゃん。

小暑から大暑へと移り変わる七月のひとつき。

ぼくとおねえちゃんの関係も、学園という場所の意味も、そして生きる理由さえも変えてしまった特別な日々。

ぼくには分かる。十年、二十年という時が経ち、外見も、心の有り様も今とはすっかり変わって、鷹崎学園で送った学生生活が記憶の中で色褪せてしまったとしても。

……あの日々……あ、二人だけの水泳授業が繰り返された一週間で、きっとぼくは折に触れて思い返すだろう……。

■スク好きシスコン集まれ!

「スク」という二文字を見聞きするだけで脳内が紺一色に染まるスクール水着ファンでシスコンな弟御用達のゲームですよ!

そうです。『姉★スク』のスクはスクール水着のスクです。お姉ちゃんが好き、しかもスクール水着を着て迫ってくれたら最高と思っている貴弟なら必ずチェックしておくべきタイトルです。

お姉ちゃんとスクール水着、ひいては水

泳部との組み合わせは、姉業界では比較的标准なものでして、ぱっと思いつくところでは『姉☆孕みつくす』(Lilith)や、前号で取り上げた『あねあねハーレム』(フランス書院美少女文庫)などがそれ。もともと水着というものが魅力的であることに加え、陸上競技や球技ほど汗臭くないスマートな印象が姉に似合うからでしょうか?

■姉とスクール水着に特化

この『姉★スク』に登場する(攻略可能な)ヒロインは笠井琴美お姉ちゃん一人だけ。というのも、この作品は Pure☆Milk 三部作の一つ的な扱いで、舞台となる学園やサブキャラクター(=他の作品ではメインヒロイン)を共用することで1作当たりのコストを下げた低価格ソフトなのです²。サブキャラクターが気に入ったらそっちのソフトも買ってね、みたいな感じでしょうか。おかげで、姉マニアにはコストパフォーマンスの良い作品になっている訳ですが。

シチュエーションも、中心はスクール水着。正確には競泳水着ですが、いわゆる旧型もあります。スク水特化と言っても、割合としては6~7割程度。重症のマニアでなければ、この位がちょうど良いのでは?

そして忘れてならないのは、サブタイトルの「誘惑」の文字。本作の基本スタイルは「姉からの誘惑型」です。主人公も姉も

² 案の定、3作全部をまとめた「デラックスパック」が後に発売されました。

お互いのことを好き合っている相思相愛なのは当然のことながらも、先に火が付いちやうのは姉。弟の方は近親相姦に強い罪悪感を抱き、葛藤してしまっているという、やや珍しい設定になっており、弟を求めて迫ってくる姉を拒みきれず…なシーンが多数用意されています。お姉ちゃんにべったりな弟、ではなくて、弟にべったりな姉もよいものです。

■ストーリー終盤には…

本作のストーリーは、一線を越えた姉弟仲の進展や、バカップル姉弟の日常がメインで、その意味では特に目を見張るストーリーが用意されている訳ではありません。

ところが、終盤にかけて、それまでの楽しい雰囲気から一転して、二人の前に立ち上がる「近親相姦の禁忌」がテーマとして持ち上がって来ます。実の姉弟だからこそ逃れられない茨の道が待っていることを、下手に飾らず、逃げず、ストレートに表現しており、心に響きます。そして、その道を歩むためには、赤の他人では決して築けない、血を分けた姉弟の絆が何よりも必要であることを力強く訴えています。(ただし、最後の締めは性急な気も…)

話の流し方自体は姉モノとしては目新しい物ではないのですが、長らく実姉が NG だった PC ゲーム界では意外と少ないのです。姉ゲー(姉モノ)初級者には新鮮に映るでしょうし、上級者には王道ストーリーが満喫できると思われま

■キャラクター

・笠井琴美(実姉)

学園では優等生で、男女問わず後輩から人気があるが、弟に対してはわがままで、やや暴君的なタイプの姉。もちろんそれは、

弟激ラブが故の愛情表現。弟と結ばれてからは、弟にべったり。弟に甘えてみたり、怒ったり拗ねたりして気を引こうとすることも。そういった行動全て、「自分が姉であり、相手が弟である」という関係を前提にしたもので、姉ゲー好きには非常に好印象。

「んー……お願い。姉ちゃんのわがまま聞いて。ね?姉ちゃん、光良と抱き合いっこしたいの」

「あんたは、お姉ちゃんのものなんだからね。」

「聞こえなかったの?一緒に寝させなさい、って言ったのよ。たまにはいいでしょ?姉ちゃんと二人一つのベッドで寝るってのも」

「姉ちゃん、寂しいんだぞ……。弟なんだから、それくらい察しなさい」

これらのセリフを語ってくれるのは、一色ヒカルお姉さま。彼女の口から発せられる一人称の「姉ちゃん」がこの上なく甘美であることは、これまで『ナースにおまかせ』『姉汁』で精根尽き果てさせられた貴弟ならば身に染みてお分かりのことでしょう。姉でありながら、甘えたような、照れたようなあの口調を聞くだけでも幸せな弟気分になりますよ?

■タイトル名どおりの姉ゲー

スク水要素。これはもうサンプル CG やパッケージから一目見て明らかなのでいいでしょう。

誘惑お姉ちゃん要素。弟に夜這いをかけてくるシーンなどは、思っきり感情移入して楽しむこと。

姉弟のタブー。この展開を挟み込んだおかげで、姉ゲー気分が一気に高まりました。

これらが、一色ヒカルお姉さまの演技とも相まって、姉ゲーとしての合格点を確保しました。不満がゼロとは言いませんが、これで 2800 円ならば上出来の作品と言えるでしょう。



マコトね～ちゃんのボク教育法？！

メーカー	オーサリングヘヴン
ジャンル	ブラコン? エロコメ AVG
発売日	2007年3月2日

主人公・矢島光は、頼りない男の子。

男はともかく、女性とは恥ずかしくてうまく話せないくらい。

そんな弟に不満たっぷりの姉・真琴は、強引な手段で、弟を立派な男に育てようと計画する。

一方、隣家に住む叔母の真理は、光に激甘。光をめぐるのロげんかは日常茶飯事。

そんな中、光はクラスメイトと一緒に、更衣室を覗いて騒ぎを起こしてしまう。もちろん、断りきれずに………だったのだが、そうは問屋が卸さない。

キツイお仕置きを合図に、真琴の計画もスタートした。

そして、真琴の計画を知った真理も、ライバル心&光可愛さに、邪魔を始める。

ビター&スイートなお姉さんの間に挟まれて、光はかつてない経験をするようになる。

さて、二人のねーちゃんの間で挟まれて、光は、立派な男に成長できるのでしょうか………？

■オーサリングヘヴンらしい…

「え？これだけ？」

と漏らさずにいられない短さが、何よりも衝撃でした…。覚悟はしていましたが。

その上、旧態依然なインターフェイスとシステム。「見た目は二の次、内容勝負！」…ならばまだ救われるものを、肝心の中身もイマイチと来ては、ただ時代遅れ・努力不足との批判も免れないわけです。全姉連の姉ゲー評価は、姉要素の良し悪しがほとんど全てを決めますが、こればかりは一言申し上げずにはられません。オーサリングヘヴン（コンプリーツ）を知るユーザーにとっては、「何を今さら」という事実なんですけれども。

■教育…してもらってない！

同社の得意なジャンルはママ×シヨタなんですけど、今回のメインは実姉&従姉。二人のお姉ちゃんの板挟みに遭う気弱な男の子が主人公。

同級生の覗き事件に巻き込まれ、自宅謹慎を言い渡された主人公に、お姉ちゃんが教育の名の下にお仕置きを始める。

…と聞いてはいたものの、一度お姉ちゃんにお尻ペンペンされた後、なし崩し的にベッドへ。あとはストーリー途中で2～3回のHシーンだけで、厳しい教育って一体どこに！？姉貴肌なお姉ちゃんに無理難題をふっかけられたり、果ては愛のスパルタ式を想像していたのに、拍子抜け。

一方、もう一人のヒロインで、叔母にあたるお姉ちゃんは甘やかし担当。ダダ甘までには至らないものの、甘いのは確か。しかし、いかんせんゲーム全体が短いので、当然このお姉ちゃんが甘やかしてくれる場面も短いのが残念。

さて、年下である主人公を愛してくれているヒロインが二人いた場合、姉の性(さが)として「この子は私のもの」的な奪い合いが起こるのがこの世の常。本作の発売前、公式サイトや雑誌上で二人が長ネギでせめぎ合うイベントCGが公開されていて、二人の関係をよく物語っているような、微笑ましくて良い絵だったんです。ところが、本編をプレイしてみると、互いにいがみあうようなシーンは思っていたほど多くなく、どちらかというとなげ駆けして主人公と関

係を結ぶような展開が中心。どうにも物足りない二人の間柄でした。

また、攻略可能なサブヒロインが3人登場し、いずれも年上の誘惑系なのですが…それぞれ痴女気味の性格が先行し、年上の魅力に欠けます。大真面目なのかネタなのか、サブヒロイン3人ともストーリー展開が同じというのはいかがなものかと…。

■キャラクター

・矢島真琴（実姉）

つり目が性格を物語る、厳しめの姉。あ、でも、もちろんブラコンです。設定上は。

美人であり、有能なOLさん。自分がしっかり者の姉なだけに、頼りなげな弟にヤキモキしてしまい、愛のムチ的につい厳しく教育を…と流れてしまうハズでした。いや、普通のゲームならそうすべきなんでしょう。

しかし、どうにも上手く表現されていない。

「ブラコン」というからには、姉弟仲が良いとの関係を超えて、弟のことになると目の色が変わるくらいの愛情があってしかるべきだと思うのですが、真琴お姉ちゃんは淡白すぎます。弟とベッドで一戦交えても受身的でムードに乏しく、終わるやいなや、そっけなく体を離して自室に帰ってしまうし。ブラコン表現の優劣以前に、手が抜かれてしまっています。もう一方のヒロイン・真理お姉ちゃんへの対抗心も、単なる独占欲にとどまっているように見え、「あっちの姉ちゃんよりアタシの方がこんなにアンタのことを大事に思っているんだからね！」のような、弟とまっすぐ向き合う態度に乏しいのです。

「厳しい実姉。でもブラコン」なんて王道の一つなのに、ほとんど活かされていない残念な姉ヒロインでした。

・川辺真理（叔母）

叔母とありますが、年齢的には真琴お姉ちゃんとはほぼ同等です。おばさんではありません。「おばさんと呼ぶと怒るので真理ねーちゃんと呼んでいる」という年上ヒロインらしい設定はありますが。

「職業・保母」が示すように、甘くて優しいタイプのお姉ちゃん。甘いお姉ちゃんはツンデレタイプと違って裏表がなく描きやすいため、一定のレベルには達していません。ただ、そこからさらに一線超えるのは難しく、真理ねーちゃんも…。

「○○クンったらカワイ〜！」とスキンシップを取ってくるようなお姉ちゃん好きなら相性が合うでしょう。

・吉沢ゆかり 西滝川慶子 久保田千春

それぞれのお姉ちゃんと同僚や、スポーツジムのインストラクター。主人公をつまみ食いしてくる、おまけヒロイン。

でも、わざわざ各ヒロインにシナリオが用意されています。メインヒロインには共通ルートが1つあるだけなのに…

■もう少し流行を追っても…

かたやビシバシと姉に引っ張り回される手荒な弟教育、かたや甘く包み込んでくれる優しい弟教育…を期待していたのに、「ボク教育法」のタイトルから連想される展開はほとんどなく、ゆるい日常が広がるだけで、姉ゲーとは呼びづらい1本でした。

姉ゲーを目指しているのは間違いないのですが、ブラコンのお姉ちゃんとはどういう行動を取るものなのか、研究が甘い！それならば、他のゲームの真似や二番煎じを狙ってくれた方がまだマシです。流行に流されず、独自の作風を突き進むスタイルはオーサリングヘヴンの良い所でもあり、悪い所でもありますが…。



OVA ToHeart2

第1巻「メイドロボはじめました」

メーカー	アクアプラス
ジャンル	オリジナルビデオアニメ(DVD)
発売日	2007年2月28日

メイドロボ「イルファ」のロケテストが向坂家で行われることに。

最新カメラを構え、願望叶って臨戦体勢の雄二。

しかし、そこには巨大な“越えられない壁”が…!?

■これはもはやタマ姉OVAだ!

もう説明不要であろう、無く弟(こ)も黙るToHeart2のタマ姉が、OVAシリーズ第1巻から主役を張りました。

ToHeart2は既にテレビアニメ版がありましたが、特筆すべき作品ではなく、今さら敢えて見ろ、とは言いません。

し・か・し!このOVA版第1巻に関しては、見ておかないと一生後悔するぞと警告する!ギャルゲーのアニメ化で痛い目に遭ってきた貴弟も、これは例外。タマ姉ファンは絶対必見の作品であります。

■タマ×雄派は泣いて喜べ

おおまかなストーリーは冒頭に書いたとおり、向坂家にやってきたイルファのロケテストで大はしゃぎの雄二に立ちはだかるタマ姉…というもの。従って、主な舞台は向坂家になります。

つ・ま・り!タカ坊なぞ所詮よそ者!ToHeart2の真髄は向坂姉弟!というタマ×雄信者なら、オフィシャルで大願成就した事を泣いて喜べる仕様になっています。

■小姑パワー全開タマ姉

製作側は、イルファがやってきたことで暴走する雄二を諷めるタマ姉…のつもりで描いたのですが、我らにしてみれば、**愛する弟雄二の心を奪う泥棒猫イルファに嫉妬心むき出しのタマ姉**にしか見えません。いや、これが素直な見方だと思いますよ?

炊事、洗濯に勤しむイルファを隠し撮りする雄二の背後に立ちはだかって愛の鉄槌、いや鉄の爪—Iron Claw—をお見舞いしたり、朝の雄二の寝覚めにも何故か立ち会っていたり、イルファ特製のお弁当にかぶりつく雄二を氷のような冷たい目で見下したり。これが弟ストーカーと呼ばずに何と言おうか!

ああ、僕らはこれが見たかったんだ…、可愛い雄二のことが気になって気になって仕方なく、つい弟の姿を追ってしてしまうタマ姉が…。

結局、雄二は最後までイルファに夢中で、タマ姉の秘めた気持ちには気付かないのですが、これもまた良し。今はまだ叶わない、弟・雄二への想いが、タマ姉の胸に切なくしまわれていく余韻があるのだから。そして僕らはまた[再生]ボタンに手が伸びてしまうのです。

「タマ姉は小姑である」。この、古くて新しい視点から第1巻を製作したOVA版スタッフに、惜しみない拍手を贈りたい。



姉コミック

アットホーム・ロマンス

著者	風華チルヲ
連載	まんがタイムきららキャラット
発売日	2007年8月27日

■過剰愛的家族マンガ

久々の大物姉コミックが、萌え系4コマ誌・きららキャラットに登場！

姉は登場してもチョイ役だったりとか、ほのぼのゆるゆるの姉弟愛マンガだったりとか、そういう騙しはありません。

「過剰愛的家族マンガ（または姉マンガ）」

著者自らがそう紹介する『アットホーム・ロマンス』。

そこには“アットホーム”の語感からはほど遠い、ブラコンでどうしようもないお姉ちゃんが生息していたのです！

■ねえ、姉プレイしよっ!!

主人公・竜太朗の一家は、元悪役プロレスラーの父、家族思いの母、そして姉の4人家族。

まず、この竜太朗、高校生にもなりながら目に余るほどのマザコン。ママのエプロンの残り香を嗅いで独りハァハァするようなダメっぷり。それを見かねた母は、親離れさせるべく一時家を離れることになり…そこに登場するのは、竜太朗のマザコンパワーに勝るとも劣らないザ・グレート・ブラコンの暁子姉ちゃん！

一時的とはいえママを失った弟の心の隙間を埋めるため、あるいは溢れるブラコン魂から来る欲望を満たすため？暁子姉ちゃんの暴走はエスカレート。

ダメすぎる！弟も弟なら姉も姉！

竜太朗「ちょっ…姉ちゃん！！パンツくらいひとりではけるよっ」

暁子姉「竜ちゃん、ブラブラ…だよ？」

暁子姉「うんしょ…うんしょ…竜ちゃん…ほら、はけたよ？」

竜太朗「もう！俺はママにはかせてもらいたんだよ！！」

この姉弟の噛み合わなさが本作の大きなポイント。姉は極度のブラコンなのに、受け止める弟の方はマザコンで、姉に対してなびかない→姉はますます世話を焼く→でも弟はなびかない→以下略となるのです。

姉萌え観点からは言うこと無しの暁子姉ちゃん。基本はよく出来た女子高生で、おとなしめの姉なのに、弟への愛情値が常にMAX。弟にパンツをはかせる、一緒にお風呂に入る、裸で添い寝は、姉が弟に焼くお世話としてごく当然。さらに上に行く妄想が暁子姉ちゃんの脳内では繰り広げられているらしく、それら全てが「姉プレイ」らしい。

これが凡作だと、弟に恋する自分に酔うナルシストお姉に陥りやすいものを、暁子姉ちゃんは根本の部分で弟本位に考えている所が偉い。姉弟愛ってそういうものですよ？弟に見立てた枕を抱きしめて鼻血を噴くようなお姉ちゃんだったとしても！

ノリの良いギャグ系で、姉ネタ豊富な4コマ『アットホーム・ロマンス』。全姉連の一員を自負する貴弟なら必携の書です。



あねいも 2nd. Stage

メーカー	bootup
ジャンル	姉妹 LOVE エロ ADV×2
発売日	2007年4月27日

お節介な深月。変わり者の皐月。3人は子供の頃からずっと一緒だった。一緒に買い物に行ったり、スキーに行ったり、少し騒々しいけど楽しい毎日。

これからもそんな毎日がずっと続くと思っていた12月のある日、青天の霹靂ともいえる事件が起こる。拓己の父『和義』が、新しい家族として、そして拓己の姉と妹として、二人の少女を家に連れてきたのだ。姉妹の名前は『白川沙織』『白川唯』。拓己を始め、新しい家族を頑なに否定する沙織に、お兄ちゃんが出来たことを喜び拓己に甘えてくる唯。最初は心を閉ざしていた沙織だったが、拓己を始め、小野寺家と霧島家の人たちの温もりに少しずつ心を開いていく。また妹の唯も拓己を頼りになる兄として慕い始める。

そんな姉妹の心境の変化に、深月は不思議と焦りを感じ始め、今までになく積極的な行動に出る。最初はそんな姉の様子を楽しんで見ていた皐月も、ある事件を機に拓己を意識し始める。

それぞれの想いを胸に、拓己と二組の姉妹の関係は少しずつ、だが確実に変化を遂げていく。そして待望の冬休み――。拓己の選んだ大切なパートナーと過ごす、Hな毎日。Like～Loveへ。エッチはエロに進化していく。

『あなたのことが大好きだから……どんなことでもしあげられる』

無限大の愛と欲望がたっぷり詰まった恋愛物語が今再び始まる。

■よい洗練されて帰ってきた!

「LOVE エロ」をキーワードに、同居姉妹との愛とエッチを描いた『あねいも』³の続編が登場しました。

³ 2004年9月17日に「ぷちばじゃま」より発売。全姉連会報第3号参照。ちなみに、第3号は全姉連サイト上で公開しています。

前作は、目立った特徴や奇抜な趣向もないオーソドックスなギャルゲーだったのですが、包容力のある優しい姉、何かと突っかかってくるツンデレ妹と、段階を踏んで親密度を深めていく「アイとHのステップアップ」(サブタイトルより)が上手に描かれていました。

今回の続編は、ライターは続投ながらも、ストーリー・登場人物は前作と無関係の新作ですので、前作のプレイ経験は不要。

前作は低価格ブランドでしたが、今回は8800円クラスの本格作。ヒロイン数2倍、絵・音なども向上。腰を据えて楽しめるできばえになっています。

■お隣姉妹+押しかけ姉妹

家族同然の付き合いのお隣さん姉妹を持つ主人公。その家に、ある日突然父親が初対面の姉妹を連れてきて、今日から家族の一員だ、とストーリーは始まります。

ここで、「幼なじみ以上の関係になっているお隣姉妹」vs「初対面とはいえ急に同居することになった姉妹」による主人公争奪戦?と早合点するのは間違い。お隣姉は秘めた想いをなかなか伝えられない性格、お隣妹は実は同級生で友達感覚。押しかけ姉は何故か主人公を心から憎んでいて、押しかけ妹だけが「お兄さんお兄さん」と懐いてくるような状況のため、黙っていてもお姉ちゃんが寄ってくることはなく、主人公自らが積極的にターゲットを攻略していかないと進展しないタイプのシナリオです。

■気になる姉 2 人は…

攻略対象である 4 人のヒロインのうち、トップ的風格を持つのは、隣に住む深月姉、通称みい姉。隣のお姉さん、と聞くと、垣根一枚隔てた先の憧れの女性的イメージもありますが、両家はお互い遠慮無く家を行き来する家族ぐるみの付き合いで、朝から主人公を起こしに来てくれたり、お弁当を作ってくれたり、かなり実姉に近い関係。

姉ゲーにおいて、姉と同居しているかというのは総裁個人的には重要な点で、例えばそれは、風呂上がりのラフな姿を見て、見られて気にしないほどの仲なのか、に通じるようなことだから。あ、あくまで例であって、下着姿でうろつく姉の是非ではないですよ。好きだけど。その意味から、住む家が違う姉の場合は、どれだけ気を許せる関係なのかは大事な点なのです。みい姉はきちんとそのハンデを克服しています。

主人公の筆頭姉として君臨していたみい姉の対抗として突如現れたのは、沙織さん。下校途中にちらっとすれ違い、家に帰って、「あ、あの時の！」型の出会いの後、理由は明かされないまま、容赦のない悪意をむき出しにして、頑なに心を閉ざす沙織さん。外見も実際の年齢も年上で、そんな女性が今日から家族だと告げられれば、本来なら天にも昇る出来事なのに、そう簡単には行きません。せっかくの同居するお姉さんができたのに、家庭内別居状態からのスタート。そもそもそういうストーリーなのだから、設定を嘆いても仕方ないのは分かっていますけどね。

もちろん、沙織さんルートのはじめは、凍てついた彼女の心を溶かしていく事にある訳で、4 人のヒロイン中もっとも手応えのある話と言えるでしょう。ただ、「姉と弟」の意味での姉だったかということ、少々言葉が濁ります。心が開いていく過程で、二人は

家族になったのか、恋人になったのかと二択で問われれば、恋人、でしょう。姉要素ゼロとは言いません。初めはとりつく島もなかった沙織さんと、次第に気持ちに通じていく様子はよく描かれています。ただ、ゴールが「姉」ではなく、「恋人」だとシナリオライターが決めたそれだけのこと。全姉連の立場上、そして『あねいも』とタイトルに銘打った点からは少々残念と言わざるを得ませんが、沙織さんに罪はないということで、ルート後半のベタベタっぷりに免じて許しましょう。

■注意点!

注意点その 1。

みい姉ルート中盤のクライマックスで、全てを台無しにしかねない、「姉と弟の関係離脱宣言！もう二人は姉弟じゃなくて、男と女！」的展開が突如現れます。それまでは実の姉弟同然のつもりでみい姉の後を追いかけていたのに、この主人公ときたら手の平返したように、「俺、みい姉のこと姉だなんて……思ったことない。」と言いだしてけつかるのでございます。これは醒めます。リコール回収か、修正パッチを配るレベルの話です。解せないのは、そのシーンを過ぎると、また姉と弟の関係に戻り、むしろ前よりもみい姉のお姉ちゃん度がアップしている点。さっきは悪い夢を見ていたか、何かの手違いで没原稿が混入したとでも思うしかありません。

注意点その 2。

主人公がヘタレ・鈍男君タイプです。最後までダメってことはないんですが、人によってはじれったく感じてしまうでしょう。

注意点その 3。

前作に引き続き、今作でも脚本の子宮フェチっぷりが炸裂しています。攻略対象のヒロインと一度結ばれると、それ以降は猿

のようにしまくりなんです、「子宮」と「赤ちゃん」の単語出現率がエスカレート。お好きな弟さんなら見逃せない1本のはず。

■キャラクター

・霧島深月（お隣姉妹の姉）

明るく快活、時々ドジ、世話焼きで、ちょっと照れ屋で、主人公に対して姉の自覚満々のお姉ちゃん。通称みい姉。

ずっと主人公のことを想っているが告白できない奥手な面もあるが、ひとたび想いが通じてしまうと、あとはデレデレ。弟独占欲も噴出するような、手に負え…いや姉の鑑のような姉なのです。

「いいから、お姉ちゃんの言うことは大人しく聞きなさい」

「って、言いたいんだけど、そんな声でお願いされたら、お姉ちゃんとしては断れないわね」

「バカ、そんなこと言われたら……あたし、弟離れ出来ないよ」

「ちょっと手がかかるけど……出来が悪い弟ほど、姉としては可愛いものなのよ」

みい姉の特筆すべき点は、**甘えさせ**上手な点。甘やかす上手、甘え上手ではなく、甘えさせ上手。「弟なんだから遠慮なんてなくていいの。どーんと甘えなさい。弟が甘えてくれたらお姉ちゃんも嬉しいんだから！」といった優しさで包んでくれます。

・霧島皐月（お隣姉妹の妹）

みい姉の妹。実は主人公と同級生で、妹要素は皆無。女の子っぽさよりも、気の合う遊び友達のノリで、同性のような感覚。毎晩のように主人公の部屋にシャツ+パンツの格好で窓から侵入し、その姿を見られても恥ずかしがることなく、もっと見せてあげようか？などとからかってくるような、ある意味姉要素さえ見せてくる。

いたずら好きで、セクハラが得意技。

「ぶっ、もうなに照れてるのよ。今さら恥ずかしがる間柄じゃないじゃん」

「またまたあ…ホントはみたいくせに……ホレホレ〜」

「むふふ、どう？今まではいてたほっかほかの生パンツだよ」

「うりうり！皐月ちゃんのおっぱいをとくと味わえ！」

ほれほれ・うりうり攻撃を巧みに操る手練れ。姉属性ならば、かなりクラッと来るはず。姉でないのがつくづく惜しい！

・白川沙織（同居することになった姉）

長い黒髪が似合う容姿端麗なお姉様タイプ。あることが原因で頑なに主人公一家を拒み、殻に閉じこもる。姉から見下されてきつい言葉を投げられるのに慣れっこな貴弟ならばゾクゾクしながらも、彼女の凍った心を溶かして行けるでしょう。

・白川唯（同居することになった妹）

「お兄さんお兄さん」と懐いてくる、素直で明るい、典型的妹キャラ。芯が強く、意外と度胸のある面もあるのですが、やはり妹は妹。姉属性的にはこれ以上の評価のしようがありません。

■家庭内恋愛は最高！

当たり姉・みい姉が登場した時点で、買いて言ってしまうと良い姉ゲーです。

攻略対象の4人が全てごく身近な存在なのも、姉ゲーファンには取っつきやすいでしょう。住むところは違う、出会うのは学園だけ、のようなヒロインより、朝起きてから夜寝るまで一緒のヒロインの方が我々の肌合っていますから。その意味でもお薦めできる姉ゲーでした。

姉ラノベ概説講義録

～さらなる「姉萌え」発展のために～



■はじめに

今年は、「姉萌え」の当たり年かも知れない……そう思う諸姉諸弟皆様もおられるかと思う。

この上半期だけでも、『sola』の蒼乃姉さん、『きみある』の鳩ねえが、多くの弟心をわし掴みにし、さらに8月も、数多くの姉萌え作品が控えている。

4年前、「姉萌え」のブームで姉属性も念願の市民権を得た。そして、単にブームに乗っただけの似非姉萌え作品が出ることもあったが、この4年の間に、姉ゲーに限らず、アニメ、コミックと、多く分野で素晴らしいお姉ちゃん達が生まれたことも確かである。

しかし、それでも、まだ「姉萌え」には開拓の余地が十分にある。

「お姉ちゃんが大好きなら、お姉ちゃんは増えてもいいね」(注1)

という名言も示すように、良いお姉ちゃんであれば、いくら増えても構わない。むしろ増えて欲しいのが、弟心というもので

ある。

その中で、良き姉が増えつつも、未だ発展途上にあると思われるのが、ライトノベルのジャンルである。

■ライトノベルのお姉ちゃん達

ライトノベルでの優良姉萌え作品としては、会報前号の拙稿で紹介した『影≡光』(著:影名浅海・画:植田亮・集英社スーパーダッシュ文庫)がある。

今年の1月に第4巻(激突編)が発売され、ついに、世界で一番弟を愛するブラコン・御影お姉ちゃんと、ツンデレ師匠ルーシーとの直接対決が見られた。その簡単なレビューは全姉連のホームページに掲載させていただいたので、よろしければ、ご覧いただきたい。(注2)

そして発売予定が延びていた第5巻がいよいよ8月発売決定(注3)となり、ようやく「姉」VS「師」対決の続きが読めるわけであり、非常に楽しみにしているところである。

しかし、実のところ、この作品以外に姉弟をメインとし、かつ姉萌え作品として優れたライトノベルは今のところ、皆無である。

もちろん、姉弟が登場するライトノベルは多数、存在する。しかし、残念ながら、メインヒロインとして、物語の中で十分な活躍の場を与えられている姉は、今のところ、あまり見あたらないのが現状である。

そこで、今回は、メインヒロインではなくとも、十分魅力的な「姉」としての資質を備えたお姉ちゃんが、登場するライトノベルをいくつかご紹介する。

なお、これは、単なるお姉ちゃんの紹介ではなく、この紹介によって、お姉ちゃんファンの購読層を増やし、それによって、不当に扱われているお姉ちゃん達を救済しようという崇高な目的に基づいて筆を執るものであって、決して、某姉萌え作品が発売延期になってレビューにするネタがなくて困ったからでは、ない！……うん、ない（笑）
……それでは、気を取り直し、作品を紹介していこう。

■『らぶ☆ゆう』シリーズ

著：七月隆文 イラスト：みけおう
集英社スーパーダッシュ文庫
第3巻まで発行（第4巻発売決定）



主人公・神田俊の空想によって、現実世界に登場した人気RPGの姫勇者ロザリーと、ツンデレお嬢様、世話好きお姉ちゃんがおりなすドタバタラブコメ。

現在第3巻まで発行。第3巻では、主人公を「オニーちゃん」という呪いの言葉で呼ぶ新ヒロイン（しかも準メインヒロイン扱い）が登場したために、サブヒロインのお姉ちゃんの肩身がさらに狭くなってしまった……。というより、巻を経るごとにお姉ちゃんの扱いがぞんざいになっているよ

うな気がするのですが、気のせいですよねぇ？ 第4巻の発売も決定したようですが、大丈夫ですよねぇ？

・小鳩みこと（ミコ姉）

主人公の従姉。隣に住んでいて、小さい頃から主人公の面倒を見てきたお姉ちゃん。夢は「お姉ちゃん妻」となって、幸せな家庭を築くこと。安産型のナイスバディ。

基本はダダ甘系だが、怒らせるとダークな面が発動する。

主人公を心配するあまり、妄想を抱いては「俊ちゃんがニートになっちゃう」と気絶する。

子どもの頃に主人公とは、「大きくなったら、ミコ姉と結婚する」と約束したそうである。つまり、弟たるもの、姉に対する責任を取らなければならない。

「ずっとお姉ちゃんがお世話してあげるからね。炊事も、洗濯も、お掃除も……」

■『ムシウタ』シリーズ

著：岩井恭平 イラスト：るろお
角川スニーカー文庫
本編9巻・bug5巻（以後続巻）



少年少女に取り憑き、夢を喰らうかわりに宿主に特殊な能力を与える謎の存在“虫”。その特殊能力ゆえに、“虫憑き”を管理しようとする政府の特別環境保全事務局（特環）。特環の局員“かっこう”こと薬屋大助を中

心に“虫憑き”になった少年少女たちの苦悩、愛と戦いの日々を描く。

アニメ放映・コミック連載も始まっている、人気のシリーズ。主人公に実の姉がいるが、原作本編9巻の中で、お姉ちゃんの活躍は4～5巻が中心。特に5巻は姉弟関係が物語のメインであり、姉萌えシーンも多く、姉萌え作品としても楽しめる。

・鮎川(葉屋)千晴

主人公の姉。弟を“虫憑き”にしてしまった時に、弟に関する記憶を一切失っていたが、ある事件をきっかけに思い出す。自分のせいで弟が“虫憑き”になってしまったことから、弟に断罪されることを望み、その行方を追う。

弟については、敵味方双方から恐怖と憎悪の対象になっているにも関わらず、誰よりも優しい「良い子」であると信じて疑わない。ことあるごとにそれを主張する。

弟のためなら、自分がどんなに傷つくことも厭わない、まさにブラコンなお姉ちゃんである。

「ほらね？ あたしの弟は誰よりも優しく強い良い子なんだよ」

千晴お姉ちゃんの見せ場は第5巻である。

姉は自分の罪を償おうと弟を捜し、弟は「姉が失踪した」という情報を得て、危険なものを予感し、姉を捜す。

姉弟それぞれの視点から、お互いを捜すというつくりになっており、また過去の、姉が弟の記憶を失う前、主人公が“虫憑き”になるきっかけとなる話も絡み、『ムシウタ』としての物語的にも、姉萌え的にも非常に盛り上がる展開になっている。

現在もこの作品は続いており、5巻以降の千晴お姉ちゃんの出番は、残念ながらほ

とんどない。とはいえ、メインヒロイン(5巻では主役と言っても構わないが)ではないものの、物語の鍵を握る重要人物として、今後もお姉ちゃんの活躍が十分期待できる作品である。

弟・葉屋大助も、この巻においては、姉のことをかなり心配していて、シスコンの気が多分にあることが推測できる。

ただ、ひとつ、不満を言うのであれば…弟よ、姉のことは呼び捨てにするな！

お姉ちゃんは、「姉」の尊称をつけて呼ぶのが、弟の義務である！

■『うたえもん!』シリーズ

著：松野秋鳴

イラスト：QP:flapper

MF文庫J(メディアファクトリー)
第2巻まで発行



ある出来事をきっかけに、女性に対して超がつくほど、Mの快楽に目覚めてしまった主人公・砂戸太郎。この変態体質をなんとか治そうと、第二ボランティア部を訪れた太郎だったが、そこにいたのは、神を名乗る勘違い美少女・石動美緒と、彼がドMになるきっかけをつくった結野嵐子だった。

太郎のM体質を治す、という美緒だが、果たして彼のM体質は治るのか?…というストーリー。

ストーリーの本筋は、金髪・高飛車・ツンデレ・ちっちゃい・先輩と五拍子そろっ

た石動美緒と、典型的なヒロインともいうべき、結野嵐子とのコミカルでややシュールなドタバタラブコメ。

サブヒロインとして、主人公を溺愛するお姉ちゃんとママン、(他人を)コスプレさせるのが趣味のクール保健医、となかなか濃い設定の女性陣が登場する。

・砂戸静香

主人公の姉。弟を溺愛……というか、愛している。甘えん坊系お姉ちゃん。日々、母親と弟をめぐり対立。それは時に武力衝突にまで発展する。

武器はトンファー (笑)

「わたし、太郎ちゃんとの結婚式ではこのネックレスをしようって心に決めてるの」

・砂戸智子

主人公の母。息子を溺愛……というか、愛している (笑)。娘とは日々、主人公への愛故に争いが絶えない。

武器はヌンチャク (笑)

「生まれたばかりの太郎さんはこう言いました……僕は智子さんに会うために生まれてきたんだよ、アイラブユー……」

この作品の残念な点は、主人公にシスコン、マザコンの気がまったくと言ってよいほどない点である。母と姉の溢れまくっている愛情も、主人公はうんざりしている。何てぜいたくな奴だ！ けしからん！

しかも、母も姉も、主人公を溺愛しているので、主人公のドM体質が母や姉に対しては発動しない。そのため、せっかくの主人公の特殊な設定が生かし切れていない。そのため、そちらの方面が大好きな総裁諸

弟にとっては、やや物足りないと感じるかも知れない。

ちなみに第2巻・第2話は、一応、ママンとお姉ちゃんがメインになっている…と思う、思いたい、思わせてくれ (笑)

■終わりに

以上、見てきたように、ここで紹介したお姉ちゃん達は、メインヒロインと比べても、全く遜色のない、むしろ何でもメインヒロインではないのだ！ と姉魂^{シスコン}の弟叫び^{おたけ}をあげたくなるほどの魅力的なお姉ちゃん達である。

諸先生方におかれては、これだけの魅力ある「お姉ちゃん」を創造できる力をお持ちなのだから、ぜひ、お姉ちゃんに「姉」としての、さらなる活躍の場を与えていただきたく思う。

もちろん、思い切って、お姉ちゃんをメインヒロインにするなど、作品の方向性を変えてみるのもよいと思う(マテ)

また、他のライトノベルの諸先生方、これからライトノベル作家を目指す諸姉諸弟におかれては、お姉ちゃんヒロインの需要が高まっていること、そして、時代は「お姉ちゃん」を切望しているという現状をふまえて、積極的に姉ラノベ執筆に挑戦していただきたければ、幸いである。

(注1) 姉ソングの名曲「きゅーぶ de お姉ちゃん」の歌詞より。きゅっ、きゅっ、きゅーぶ！

(注2) 全姉連 2007年1月のログを参照

(注3) 8月24日発売予定。まさか…延びませんよね？これ以上

■千里 きりん

全姉連会報⑦発行おめでとうございます。
前回の冬コミ同様、
総裁さんにはオリジナル漫画の掲載を
許可して頂いていたのも関わらず、
またも!漫画の完成までこぎ着けず…
自己嫌悪。

下記のキャラで成人指定の漫画を
描いていたのですが、
度重なる編集さんから依頼で
スケジュールは悲惨な状態に…
こんな凹んでる時はお姉さんに
アイスでも食べさせてもらい
悩みもいっしょにクールダウン♥



夏コミ発行の会報は、準備のための時間は十分あるはずなのに、少々ボリューム不足でした。ごめんなさい、お姉ちゃん。(上目遣いで)
ただ、巻頭でも述べたとおり、今年は姉属性的には当たり年です。
もう今から、あれもこれも…とリストアップに事欠きません。



姉ゲー界では、やはり『きみある』が飛び抜けていました。
姉で名を馳せた姉好きが、姉好きのために生み出した姉ですから、姉好きの心を捉えないわけはありません。この後予定されているアニメ版、改めて大いに期待したい！



今号の表紙を描いてくださった風華チルヲ先生、ありがとうございました。
今をときめくきららキャラットの連載作家、しかも単行本発行直前のド修羅場の先生に表紙を描かせる全姉連。身の程知らずにも限度があります。アンタ何様？と足でぐりぐり踏まれても何も言えません。姉になら。

我林さん、今号も姉ノベルについて有益かつ明快な批評を頂きました。ありがとうございます。姉ノベル界の夜明けまで、あと少しと信じましょう！

千里きりんさん、お忙しい中、いつも素晴らしいゲスト原稿をありがとうございます！今度こそ漫画を弊誌で！

全姉連会報 第7号

発行：全姉連 総本部

発行日：2007年8月19日

著者：全姉連総裁

連絡先：so-sai@zenaneren.org

印刷：株式会社ユリクリエイト様

表紙：風華チルヲ様(サークル「美彩 d」)

ホームページ「人工樂園」

<http://www.mirai.ne.jp/~bisaid/>

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>

(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。

*Where there's an elder sister,
there's a younger brother.*

全姉連 総本部

-the world's largest organization of elder sister geeks

www.zenানেরen.org